



217

この記事がすごい！ 毎日新聞今週のこだわり4本

2024年6月30日号

編集／毎日新聞社カスタマーリレーション本部

能登半島地震 集落の再建目指す区長



最大震度7を観測した能登半島地震から、7月1日で半年を迎えます。今回の「迫る」は能登半

島の北部、輪島市にある金蔵（かなくら）地区で、復興に取り組む井池光信区長＝写真＝にスポットを当てます。金蔵地区は地震だけでなく、家屋の全壊もなかつたのですが、道路が寸断され陸の孤島に。自衛隊のヘリの物資輸送でなんとか持ちこたえましたが、その後、安全に住める地を

求めて住民が続々と流出。もともと「限界集落」とされ住民が95人しかおらず、震災により一時は13人にまで減りました。井池さんは地区内に仮設住宅を作ろうと奔走しましたが実現しませんでした。現在は、地区内に災害公営住宅を作り、住民が住み続けられる場を設けて欲しいと行政に働きかけ

30日(日)=1、3面

ています。高齢者が多く、自宅の再建は経済的に難しい。そういう状況で、いったん地区外に出てしまえば、戻ってくるのは容易ではありません。

井池さんと住民との絆、また「棚田」が続く同地区的美しい風景と、集落のコミュニティーを守りたいという井池さんの思いに迫ります。

自衛隊発足から70年

30日(日)=総合面



防衛省の前身だった防衛庁と自衛隊の発足から、今年7月1日で70年を迎えます。先の大戦の反省に基づき、自衛隊は軍隊ではなく「必要最小限度の防衛力」と位置付けられています。しかし、最近の国際情勢や技術革新によってその役割は大きく変わりつつあります。70年の歩みと現状・課題を分かりやすくひととします。



2004年にイラクへ派遣された陸上自衛隊の部隊

STAP細胞論文について、報告書の内容を発表する理化学研究所の調査委員会=2014年



特集ワード

終末を予言？ 隕石衝突説と世相



「ノストラダムスの大予言」の再来なのでしょうか。「2025年7月5日、隕石（いんせき）が太平洋のフィリピン沖に落下。衝撃で大津波も起き、日本をはじめ周辺諸国に被害が出る」。そんな説が

7月1日(月)=夕刊2面

ネット空間で広がっています。人類滅亡なら大変です。

残り1年のカウントダウンを前に、終末予言の真偽と広まる世相を、一家言ある専門家と真面目に考えてみました。

みんなで書いて、防災について考える機会にもなるお役立ちブックです。時間のある夏休みに、ぜひ毎小を読んでみませんか。（宮澤暁子）



新毎
新聞

論点

「STAP細胞」騒動から10年

7月3日(水)=オピニオン面

新たな万能細胞として、2014年に華々しく発表された「STAP細胞」が撤回され、約5ヶ月後に論文が撤回され、幻に終わった。一連の騒動から10年が経過しましたが、

捏造（ねつぞう）や改ざんといった研究不正の報告は後を絶ちません。正は社会にどんな影響を与えるのでしょうか。どうすれば減らせるのでしょうか。

窓辺かご

編集後記



毎日小学生新聞で
「夏トク！キヤンペー
ン」を実施中です。
休み中の毎朝、毎小
べるプレゼントと、夏
届くお得な価格のキ
ヤンペーんです。選べる
例の「ニュース日記」
の他に、今年初めて
「子ども防災ガイド」
が登場しました。